

(2) 断面図の作成

本調査結果で実施されたボーリング結果を取りまとめて、地層推定縦断面図 1 断面、地層推定横断面図 5 断面、地層推定参考横断面図 4 断面を作成した。

以下の図 4-1-2~4-1-11 に地層推定断面図を示す。断面図作成位置は、調査位置平面図を参照。

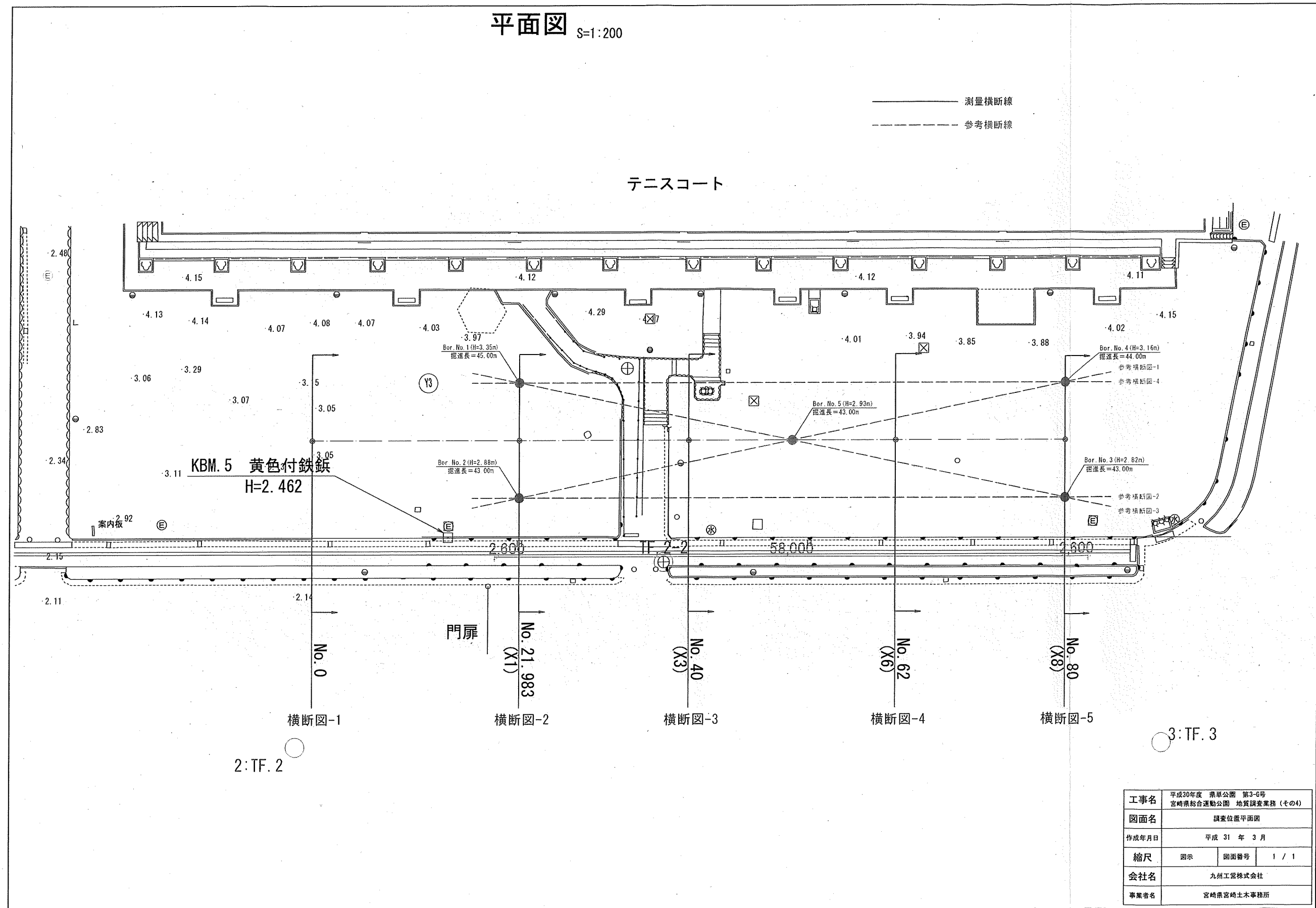


図 4-1-1 調査位置平面図 S=1:200

土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

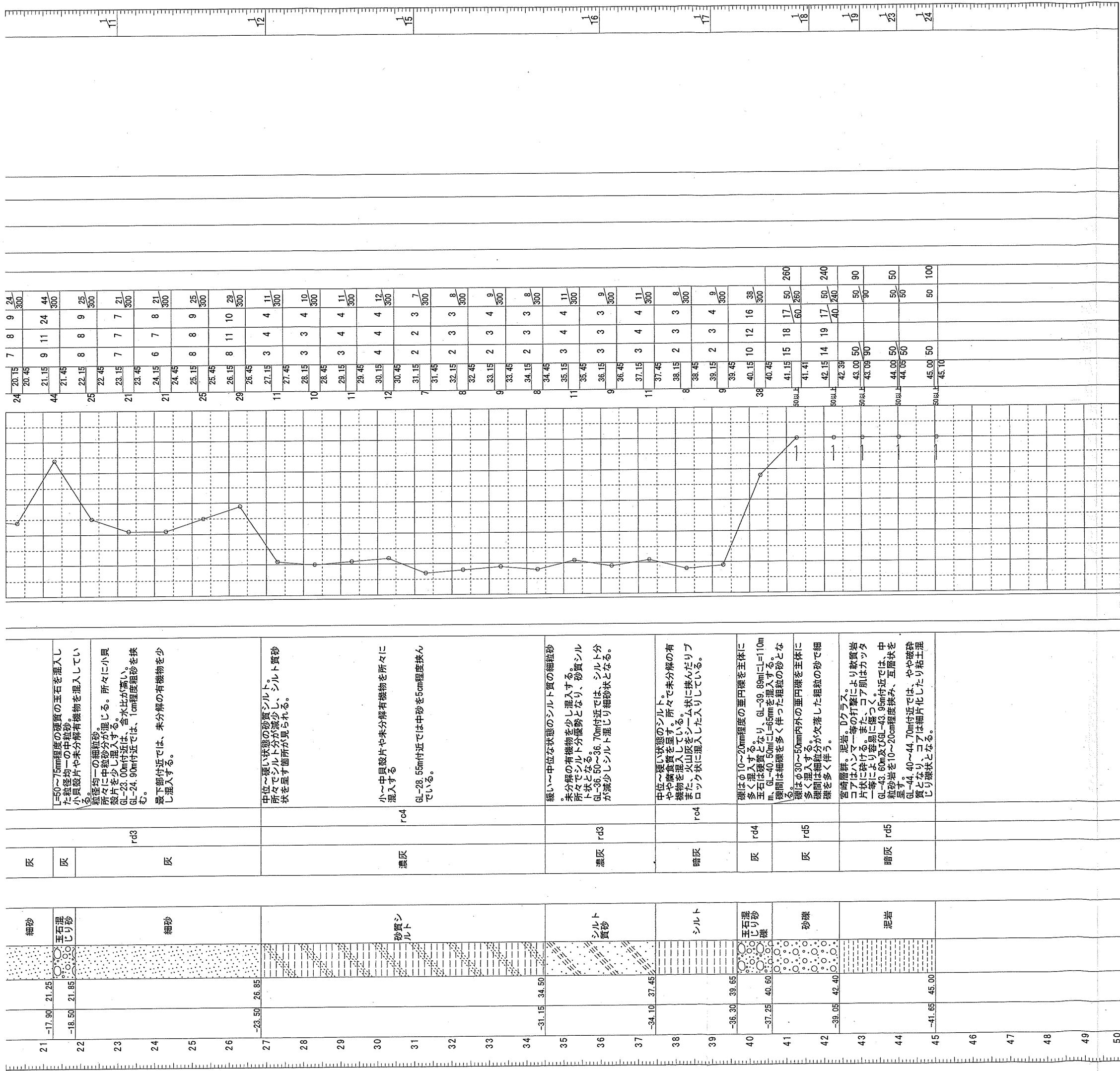
調査名 平成30年度 県単公園 第3-G号 宮崎県総合運動公園 地質調査

事業・工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	Bor.No.1	調査位置	平成30年度 県単公園 第3-G号 宮崎県総合運動公園 地質調査	北緯	31° 49' 12.5400"
発注機関	宮崎県宮崎土木事務所	調査位置	平成30年度 県単公園 第3-G号 宮崎県総合運動公園 地質調査	東経	131° 26' 43.6400"
調査業者名	九州工営株式会社 電話 0985-28-1122	主任技師	伊集院 弘尚 地盤調査技師 第16179号	ボアリング責任者	福島 幸一 地盤調査技師 第17836号
孔口標高	H= 3.35m	方角	0°北 270°西 180°南 90°東	コ定	ア者
総掘進長	45.00m	地盤勾配	水平0°	コ定	ア者
		使用機種	試験機 YBM-05D	コ定	ア者
		エンジン	ヤンマー NFD-9	コ定	ア者
		ポンプ	吉田GP-5		
		調査期間	平成31年 1月 4日 ~ 平成31年 1月 24日		

標尺 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対稠密度	記 事	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験				室内試験	削孔月日	
									深度 (m)	100mm毎の打撃回数	50回の貫入量	自沈時の貫入量			試験採取
1	1.75	表土	表土		灰褐		粘土分を10~20%程度不均質に含む粗粒の砂。盛土と考えられる。GL-0.60~0.80m付近は粘土分優勢となり砂質粘土~粘土質砂状となる。	1/19	15	5	5	15			
2	1.60	岩砕	岩砕		灰	rd3	泥質岩 (宮崎層群-泥岩) の岩砕と考えられる。全体的に軟質化している。	2/50	11	4	3	11			
3	3.65						粒徑均一の細粒砂。緩い状態である。含水比が高く、緩い状態である。小貝殻片を混入する。	17/12	5	2	1	5			
4	4.90	細砂	細砂		淡茶灰		中粒砂分を主体に細粒砂分が混入する。所々に小貝殻片混入する。	3/80	5	1	2	5			
5	6.00	中砂	中砂		淡茶灰	rd2	粒徑均一の微~細粒の砂。粘土分を少し含んでいる。		9	3	3	9			
6	6.45	細砂	細砂		淡茶灰		細粒の砂主体に中粒砂分混入する。所々に小貝殻片を混入する。中位な状態である。GL-8.50~9.00m付近では細粒砂分が優勢となる箇所が確認される。また、GL-8.60m付近には未分解の有機物を少し混入する。		5	2	1	5			
7									12	2	5	12			
8									12	3	5	12			
9					淡茶灰	rd3			19	6	7	19			
10									19	6	7	19			
11	11.00	細砂	細砂		灰		粒徑均一の細粒砂に粗粒砂分が少し混入する。所々に未分解の有機物を混入する。		7	3	2	7			
12	12.00								36	10	13	36			
13									34	11	12	34			
14									27	8	9	27			
15									24	7	8	24			
16									28	9	10	28			
17		細砂	細砂		灰	rd3			26	8	9	26			
18									24	8	8	24			
19									25	8	9	25			
20									24	7	8	24			
21	21.25	玉石混じり砂	玉石混じり砂		灰		GL-20.50~20.70m付近では一部中粒砂分が優勢となる。		44	11	24	44			
22	21.85				灰		GL-50~75mm程度の硬質の玉石を混入した粒徑均一の中粒砂。		44	11	24	44			



L=50~75mm程度の硬質の玉石を混入した粒径均一の中粒砂。小貝殻片や未分解有機物を混入している。粒径均一の細粒砂。所々に中粒砂分が混入する。所々に小貝殻片を少し混入する。含水量が高い。GL-23.00m付近は、1cm程度粗砂を挟む。最下部付近では、未分解の有機物を少し混入する。

中位~硬い状態の砂質シルト。所々にシルト分が減少し、シルト質砂状を呈す箇所が見られる。

小~中貝殻片や未分解有機物を所々に混入する。GL-28.55m付近では中砂を5cm程度挟んでいる。

緩い~中位な状態のシルト質の細粒砂。未分解の有機物を少し混入する。所々にシルト分優勢となり、砂質シルト状となる。GL-36.50~36.70m付近では、シルト分が減少しシルト混じり細砂状となる。

中位~硬い状態のシルト。やや腐食腐を呈す。所々に未分解の有機物を混入している。状に塊んだりブロック状に混入した入りしている。

礫はφ10~20mm程度の重円礫を主体に多く混入する。GL-39.89mにL=110mmの玉石は硬質となり、GL-40.50mにL=65mmを混入する。礫間は細礫を多く伴った細粒の砂となる。

礫はφ30~50mm内外の重円礫を主体に多く混入する。礫間は細粒分が欠落した細粒の砂で細礫を多く伴う。

宮崎層群。泥岩。Dクラス。コアはハンマー等の打撃により軟質岩片状に砕ける。また、コア肌はカッタ等により容易に傷つく。GL-43.60m及びGL-43.95m付近では、中粒砂岩を10~20cm程度挟み、互層状を呈す。GL-44.40~44.70m付近では、やや破砕質となり、コアは細片化したり粘土混じり礫状となる。

